

発言者	発言内容
事務局	資料 1 から 3 に基づき、愛知県環境学習等行動計画 2030（最終案）について説明。
千頭会長	<p>協議会で議論を重ねていただいて、今説明いただいた最終案となった。</p> <p>資料 3 に前回の協議会での御意見への対応があるので、それを見ていただきながら、全体として特に気になる点があれば御意見いただきたい。</p> <p>あわせて、計画が策定され後に、次年度以降力を入れていくべき点についても御議論いただきたい。</p> <p>P.17 にある情報発信例において、ごみ減量における情報発信でイチゴが使われているが、これは良く使われているのか。</p>
事務局	家庭で一人当たり 40 グラムのごみを減量することを分かりやすく伝えるために、いちごを使って表現することとした。
篠田委員	この書き方では、いちご 1 個分が何を示すのかが分からないので、40 グラムという事が分かるように追記していただきたい。
百瀬委員	ごみを 40 グラム減らすことにどのような意味があるのか。
事務局	愛知県が定めた一般廃棄物の削減目標を達成するために必要なのが、1 人 1 日あたり 40 グラムとなっている。
百瀬委員	それが分かるように記載していただきたい。
篠田委員	<p>資料 1 にあるパブリック・コメントの 2、3 番にある、環境学習が行動につながる事が重要であるといった意見や、文部科学省が打ち出している「教えるだけではない」ということに、非常に今回の計画の内容は対応できていると思う。</p> <p>2030 年までにこの計画の効果が出ることに期待したい。</p>
岩井委員	この計画の中で、様々な取組を SDG s に当てはめて行うことが望ましいことが記載されているが、この計画は SDG s のどこに位置付けられるのか。該当するロゴマークを、表紙に記載してはどうか。
事務局	各取組を見ていくと、17 の目標の多くにあてはまってしまう。計画の全体としては、「4 質の高い教育をみんなに」や「17 パートナ

	<p>ーシップで目標を達成しよう」がよく当てはまると思われる一方、4と17だけと受け取られてしまうのも問題がある。</p> <p>以上のことを踏まえ、検討したい。</p>
岩井委員	<p>もっとも当てはまるものを一つ記載するといった形でも、印象付けることができると思うので、是非、ご検討いただきたい。</p>
千頭会長	<p>企業では、近年、SDG s のロゴマークの活用が進んでいるが、どのロゴマークを選ぶかは案外難しい。何か御意見はないか。</p>
百瀬委員	<p>自社の環境レポートでは、項目ごとに自社の考えで選定した SDG s のロゴマークを記載している。読んだ人が、この選び方は違うと思うことがあったとしても、それは仕方がないことないと考えている。</p> <p>この計画でも、県や協議会が考えるロゴマークを記載しても良いと思うので検討すると良い。</p> <p>SDG s の目標には、企業や学校にとって難しい項目もある。</p> <p>難しい項目を含めて、地域社会がこの17項目に関わっているとしたら、それはどれなのかという事を指し示すようなところがあっても良いかもしれない。</p> <p>P.37にある、世代間の連携・協働のすぐ下に、「連携・協働しやすい環境づくり」が記載されている。これは、コーディネーター制度など、主体間の連携について書かれている。</p> <p>現在の配置だと、世代間の連携に結びついてしまうため、レイアウトについて検討していただきたい。</p>
事務局	<p>御意見いただいたとおり、誤解を招くことがあるので、レイアウトを変更する。</p> <p>また、SDG s のロゴマークの活用については、ユニー株式会社様の環境レポートも参考にさせていただきたい。</p>
千頭会長	<p>環境教育・環境学習で取り組めていない目標を考えるためにも、SDG s は意味があるかもしれない。</p> <p>そのようなことを含めて SDG s を活用していけると良い。</p>
浅野委員	<p>今回の改定で新たに「家庭」が追加されることについて、「はじめに」に</p>

	<p>「行動につなぐ一人一人の力を「家庭」「学校」「社会」の様々な場面で育んでいく。」と明記され、とても分かりやすい。</p> <p>学校で環境学習を担当した後、先生方との懇談で、「保護者達が環境学習という形で教育を受けてこなかったことから、児童が家庭で教師の役割をする」など家庭での効果について言及されることもある。</p> <p>児童・生徒は、「誰一人取り残さない」という SDG s の理念を踏まえ、10 年後 15 年後に将来世代を担う一人となる。このことから、今回改定された行動計画が有効に活用されるよう期待する。</p>
百瀬委員	<p>P.24 に「買い物や食に関する学習の促進」に「環境や資源に配慮した食生活の実践を促す食育等」とあるが、できれば地域の食文化を追記してはどうか。</p> <p>地域の食文化は環境や資源にも関係しているが、それだけではなく、食文化を加味して食べることが持続可能な社会にとって大事だと思う。</p>
千頭会長	<p>食育という言葉は安易に使われることがある。</p>
百瀬委員	<p>我々の活動では、食べることは命をいただくということを、子どもたちにできるだけ体感していただいている。地産地消と共に、食べ物と自然との関わりを学ぶことで、地域の土壌や水を大切に作った作物などの命を頂いている事が体感でき、それは、自然共生や生物多様性にも繋がる。これは、計画案にもある、「自然界の中で動植物と共に生きている自分の存在について考え」ということにつながり、輸送による CO₂ が少ないことよりも重要な視点ではないか。</p>
事務局	<p>御意見を踏まえ、検討していく。</p>
荻須委員	<p>とても見やすくなったという感想を持っている。</p> <p>今回の行動計画のキーワードは、「行動する人づくり」であり、それを掘り下げると、行動につなぐ五つの力とそれを育むための環境学習の質的な向上であると思う。</p> <p>これらが初めて出てくるのが、P.7にある「課題」だと思うので、課題の表記をもう少し強調してみてはどうか。</p>
事務局	<p>御意見を踏まえ修正する。</p>

橋本委員	資料 1 として付いている概要版について、これを見ると行動計画の構成が一目瞭然でわかるが、冊子の後ろの方についていると見る人は少ないと感じるので、巻頭近くに持ってきてはどうか。
平井委員	学習指導要領の改訂に関する記載について、高等学校学習指導要領の改訂案が現在出されているが、高等学校学習指導要領の改訂についても記載いただきたい。
事務局	御意見のとおり対応したい。
千頭委員	他に意見は無いようなので、今後のスケジュールについて御説明いただきたい。
事務局	<p>皆様の御意見をもとに、計画を修正し、3月下旬に記者発表して公表をする予定である。</p> <p>また、行動計画の本冊に加え、普及版を作成しており、作成後に皆様に配布させていただく。</p> <p>次年度は、学びを行動につなげるための事例集的なものを作成し、計画の普及を図っていく予定である。その作成にあたっては皆様に御意見をいただきたいと思っているため、その際は御協力いただきたい。</p>
荻須委員	計画の本冊と普及版はそれぞれ何部作成され、どのように配布されるのか。
事務局	<p>計画の本冊は、1,000部作成し、環境学習を行っているなど関心の高い層などに配っていくとともに、ウェブサイトでも公開する。</p> <p>普及版は、各主体で出来る主な取組を例示するようなものを20,000部作成し、学校や学習施設に配布するとともに、イベント等でも配布していく予定。</p>
千頭会長	議事については以上とする。